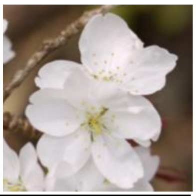
クマノザクラ

和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」

第２２号　令和８年３月発行



ヤマザクラ

■ 令和７年度を振り返って

今年度も、皆様のご支援とご協力のおかげで、多くの研究と技術開発を無事に進めることができました。心より感謝申し上げます。

一年を振り返り、主な取り組みを以下にまとめました。

【育林・育種関係】

西牟婁振興局林務課と３か年かけて整備したヒノキ特定母樹採種園が田辺市内に完成しました。1,800 本の母樹を植栽し、2 年後から種子を採取予定です。また、気候変動に対応した研究として、国や大学などの研究機関と連携し、林業用苗木における干害対策の研究を開始しました。

【木材利用関係】

県内の製材事業者と太陽熱利用木材乾燥庫による乾燥促進効果の試験研究を実施しました。環境にやさしい乾燥方法による紀州材製品の生産が進むことを期待しています。また、県内人工林の高齢級化が進行している中、課題であったヒノキの横架材利用に向けた性能評価に関する研究に着手することができました。

【特用林産関係】

これまで研究を進めてきましたヒサカキの新たな病害が、「枝葉枯病」として病名登録されました。また、サカキやアセビなどの有用な特用林産物の安定生産を目指し、県内外の生産者及び首都圏の市場関係者への聞き取り調査を行いました。本県の強みと課題を整理し、今後の研究に反映させていきます。

以上は取り組みの一例ですが、職員一同、汗をかき挑戦を続けた一年でした。今後も関係者の皆様と力を合わせ、「地域と業界に頼られ、必要とされる林業試験場」として活動してまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（場長　佐野　豊）

■令和７年度成果発表会 発表内容

令和８年２月１０日に上富田文化会館において、令和７年度成果発表を開催し、以下のとおり、５課題の「口頭発表」と各部毎に「ポスター発表・展示」も行いました。また、当日参加できなかった方にも視てもらうため、発表課題ごとに「口頭発表」を動画に収録し、「YouTube」にて３月２６日まで配信しています。まだ視聴可能ですので、以下、課題毎に記載しています URL・QR コードからアクセスし、この機会に是非、ご視聴願います。

なお、ご質問等があれば、発表者へ直接、電話・メール等でお願いいたします。

◆口頭発表（要約）

◎「常緑広葉樹林に生育するブナ科樹木５種の堅果生産量と落葉量の年次変動」

（https://youtu.be/GZeF3mOnQ-4）

経営環境部 主任研究員 山下 由美子

常緑広葉樹林に生育するブナ科樹木５種を対象に堅果（以下、どんぐり）生産量と落葉量の年次変動を調べました。ウラジロガシ、ツブラジイ、コナラのどんぐりの年変動パターンは似通っており、年ごとに増減を繰り返しました。ウラジロガシは、落葉量の多い年とどんぐりの多い年が交互にみられました。ウバメガシは１林分を除くと、概ね隔年で豊凶する傾向がみられました。備長炭原木として択伐利用されたウバメガシの幼齢林では、壮齢林よりも成熟したどんぐりが多く、択伐萌芽更新によって林分を若返らせると、どんぐりの生産が活発になると考えられました。

種子トラップの設置状況

◎「‘染井吉野’におけるクビアカツヤカミキリに対する殺虫剤の効果」

（https://youtu.be/5S0rL0QdM4Y）

経営環境部 主任研究員 法眼 利幸

供試 3 薬剤のうち、成虫に対する殺虫効果はスミパイン MC［50 倍］が最も高く、散布後 2、3 ヶ月と時間が経つにつれて即効性は低下しました。アグロスリン乳剤［1,000 倍］の殺虫効果はそれほど高くなく、モスピラン顆粒水溶剤［200 倍］の殺虫効果は前述 2 薬剤の中ほどと考えられました。散布 1 ヶ月後の材内幼虫数の抑制効果は 3 薬剤とも高くなりました。スミパイン MC［50 倍］の材内幼虫数の抑制効果は、2、3 ヶ月後に低下する傾

向がみられました。本成果は室内試験のため、活用にあたっては野外試験を実施する必要があると考えられました。

クビアカツヤカミキリ

◎「ヒサカキの新たな病害「枝葉枯病」の防除技術について」

（https://youtu.be/f9s5kcaOOKQ）

特用林産部　主任研究員　田中　作治

本県で生産量が多い花木ヒサカキの新たなな病害「枝葉枯れ症状」が 2025 年８月に「枝葉枯病」病名登録されました。今までの試験・研究結果をとりまとめ防除方法について考察しました。薬剤散布時期は、被害発生消長の結果から５月中旬（梅雨前）からベンレート水和剤（７日間隔６回）、トリフミン水和剤（７日間隔５回）を散布することが、最も効果があるとわかりました。さらに、園地の手入れ（間伐、断幹、整枝、被害枝葉の持ち出し等）を行うことで、栽培環境改善及び薬剤散布効果率が高まり、防除がより効果的になると考えられました。

枝葉枯れ症状

◎「紀州ヒノキ平角材の天然乾燥とその強度性能」

（https://youtu.be/A4Vlu7CRBGs）

木材利用部　副主査研究員　松久保　康輔

和歌山県産のヒノキを横架材として利活用するために、紀州ヒノキ平角材の①天然乾燥における部位別の含水率の測定と、②曲げ試験を行いました。①初期の含水率は辺材を含む角の部分が最も多く、心材で構成される表面と内部は同程度でした。乾燥開始してからの含水率は、角は１か月後、表面は２か月後、内部は３か月後と順に平衡状態に近づき、4か月後にはすべての部分で含水率20%程度になることがわかりました。②紀州ヒノキの曲げヤング係数は平均で 12.19 kN/㎟、曲げ強度は平均で67.9 N/㎟となりました。

曲げ強度試験

◎「紀州材（無垢材）の割れと曲げ強度性能」

（https://youtu.be/Pv88hBEAP54）

木材利用部　研究員　栗原　香名子

県産スギ、ヒノキ心持ち正角材を対象として、表面割れ、背割れおよび木口断面の欠損を定量評価し、曲げ強度性能に対する影響について検討しました。今回の試験では、表面割れ、背割りおよび木口断面の欠損と曲げ強度性能との間に相関はなく、割れによる曲げ強度性能低下への影響は認められませんでした。一方、生材と各乾燥材において強度の差がみられたため、曲げ強度性能に対する影響は、割れよりも含水率の方が大きいと考えられました。

木口断面の割れ（左）、曲げ強度試験

■　退職にあたり、皆さまへ

特用林産部　主任研究員　田中　作治

本年３月をもちまして、退職する運びとなりました。平成元年の入庁より 37 年間、県職員として森林・林業に関する様々な業務に携わり、多くの皆様に助けられ、職務を遂行することができました。その中で得た人との繋がりは、今となってはとても大きな財産です。特に令和元年から７年間、本場の研究員として取り組んだ花木の病害虫や栽培の研究は、生産者の皆様のご協力なしでは成し遂げられなかったと痛感しており、感謝の言葉しかありません。今後も本県の発展のため、お力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

R7 花木研修会参加者への説明

****

編集・発行　和歌山県林業試験場

〒649-2103　西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL：0739-47-2468　FAX：0739-47-4116

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/

****

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。